

視察（研修）報告書

令和7年5月12日

府中市議会議長 様

会派名又は 経政会
議員名 森川稔/田辺稔/藤本秀範

日 時	令和07年05月07日（火）～08日（水）
視察（研修）先	東京都千代田区（総理大臣官邸および文部科学省）
視察（研修）項目	自治体調査研究他
参 加 者	経政会：森川稔/田辺稔/藤本秀範
視察（研修）内容	<p>1. 総理大臣官邸への訪問 「石破茂広島政経懇話会」として、尾道市議会および経済・産業界を含め総勢約20名を超える人数で訪問した。表敬を兼ねた訪問であったが、石破総理大臣へ本自治体における財政的課題（とくに本市病院事業に対する特別交付措置の要望）について直接お聞きいただいた。後半国会最中での訪問ではあったがしっかりと時間を確保していただき意向が示せたことは大きな成果と捉えたい。一方で本自治体における病院体制について踏み込んだお考えもお聞きしたいところについては含みを残した。</p> <p>2. 文部科学省への訪問 令和6年度まで、本自治体において教育長としてご尽力いただいた荻野前教育長を訪ねた。目的は、「GIGAスクール、生成AI時代の学習指導要領改訂を考える」とした講義の受講である。文部科学省初等中等教育局教育課程課 荻野課長補佐として、本市教育行政を知り得たうえでの講義は、より一層充実した内容であった。講義のポイントとしては以下のとおりである。</p> <p>○学習指導要領改訂におけるポイント</p> <p>①人口減少・少子高齢化</p> <ul style="list-style-type: none">・2050年に約1億人まで人口が減少する見込み・生産年齢人口比率は約5割に減少⇒大学全入時代が到来するであろう。 <p>②グローバル化</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・2067年に人口に1割が外国人 ・2040年現在人口を維持するには、年75万人以上の外国人が必要 ③多様性&包摂の重視 ④デジタル化(Society5.0) <ul style="list-style-type: none"> ・日本のデジタル競争力は32位と位置付けられている。デジタルスキルのスコアが低いことは先進国との格差を是正する上でも看過できない部分である。 ⑤変化の激化、不確実性の高まり <ul style="list-style-type: none"> ・変化のスピードが加速、VUCAの時代 ⑥人生100年時代 <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命が世界一の長寿命社会 ○学習指導要領改訂諮問では <ul style="list-style-type: none"> ・社会や経済の先行きに対する不確実性高まり、激しい変化止まることのない時代を生きることになる。 ・生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増す 3. 府中市が「らんさぼ」を実施した理由 <ul style="list-style-type: none"> ①学ぶ意欲をゆっくり養っていく(涵養法) ②安心して学ぶ場所の構築 ③没頭できる場所の創出(道半ば) <ul style="list-style-type: none"> ⇒狙いとして、学力向上 ・不登校になる要因を下げる ・不登校ながらも学べる環境を創ることによるウェルビーイングの向上 4. 荻野課長補佐として担当している国語科の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・読書離れ ・読解力の低下と課題 ・教科書の内容を汲み取る読み方 5. 学習指導要領の方向性 <ul style="list-style-type: none"> 何を学ぶか+何ができるようになるか(資質・能力) (課題とその対応) ① 学習指導要領の理念が十分浸透していない <ul style="list-style-type: none"> ⇒もっとわかりやすく構造化、表形式化、デジタル学習指導要領
--	---

② 教科書知識の担保を意識しすぎて、内容増⇒①により、すっきりとした紙面かつ知識の質の向上を実現

③ 学習指導要領内容も増加

⇒本当に学ぶべき内容と、その際に用いる指導事項を構造化し示す

④ 地域によって変えたい制度が変えにくい状況がある

⇒特例制度の抜本的充実

⑤ デジタル学習基盤の活用

⇒「教師が手渡す」から「子供が自ら取りに行く」へ

6. 府中市の教育について

これまで取り組んできた方向性は間違いないし、府中市教育がとても魅力があるものと、外から見みて改めて強く感じている。

・学校教育では教育環境整備がまだこれから

⇒学校施設改修、小学校体育館空調整備、部活動改革

・学校教育施策は花を咲かせる段階に突入

⇒成果を表現するためだけに行う取組ではなく、真に子供たちの成長に寄与できる取組みに

・「府中の教育」で人を呼び込めるよう魅力を全国に発信する必要がある（プロモーション戦略が大切）

・「府中の教育」が「まちづくり」の根幹にあることの認識をもっと市民に広げる必要がある。

・教育は目に見える形で行いつつ、時間をかけることも許容する（取組の可視化）短期間で結果を出させるようにしない・求めない（本質からずらさない）しかし、現状維持で満足させない（現状維持は後退である）

・子供を大切にするまちに

全体をとおして、こうした省内での情報をいかに本市の教育行政と並行して結びつけていくかは大事なポイントであり、国の教育政策に則って本市に見合う政策に結びつけ挑戦できる環境を会派としても提言してまいりたい。